

国土審議会第7回半島振興対策部会議事概要

1. 日時 平成26年1月29日(水) 16:00~18:30
2. 場所 国土交通省国土政策局会議室(中央合同庁舎第2号館11階)
3. 出席者 安島部会長、原田委員、鈴木特別委員、田中特別委員、中嶋特別委員、仁坂特別委員、野口特別委員
国土交通省 花岡局長、苧谷審議官、木下総務課長、木下地方振興課長、金子半島振興室長

4. 議事

半島振興と関係する諸情勢や半島地域の特徴的な地域づくりの取組事例等について、事務局より説明が行われた後、今後の半島振興の方向性について議論がなされた。

主な議論の概要は以下のとおり。

【半島振興の今日的意義について】

半島振興の今日的意義には、今回の資料で指摘されているような、都市住民等に対し貴重な自然環境を提供できるといった点もあることは理解。一方で、従来から半島振興のベースにある条件不利性の解消についても、きちんと持ち続けた方が良いのではないか。

国土の辺縁部から人が居なくなり無居住化するという事実は驚愕である。半島に住み続けることで、半島固有の自然や文化を守ることに繋がり、それが日本全体の文化等を守ることになることを主張することも一案ではないか。

どの地域にもプラスとマイナスの両面がある。半島の場合、津波の影響が大きいといったマイナス面もある一方、魅力ある資源があるというプラス面もある。マイナス面への対処は必要だが、半島のプラスの面を活かすことで半島が新たな価値を生むことができるといったことも出さないと、半島振興に関し広く国民の共感が得られないのではないか。

【半島振興の方向性】

都市部が近くても、人口減少が著しい半島地域の市町村もある。それを踏まえれば、今後は、インフラ整備よりも都市との交流を重視する方が良いと思う。

広い意味でのコミュニティや人と人との繋がりをどのように振興に活かしていくのかという視点が必要だ。

半島については、付け根部と先端部とを一体的に振興することで、例えば、半島の先端の地域が元気になることで付け根の地域も元気になるなど、Win-Win の関係が築ける可能性がある。

半島地域と一口に言っても、母都市との距離など立地や状況は様々。タイプ分けをして考えていく必要があるのではないかな。

半島の特性を活かして、素敵な住まい方や働き方が実現できる可能性があることを出していくべき。

半島地域の良い事例にスポットライトを当てて、地域が魅力的であるというイメージを定着させていく取組が今後も必要。これは、地域の人々が、半島の魅力的な資源を活かした地域づくりを積極的に協働するような雰囲気醸成することにもなるのではないかな。

単に、半島は可哀想だから道路整備を、という発想ではないのではないかな。一方、都市住民が地方部に憧れを抱く人が多い中、都市住民と半島との交流を促進するため、必要な基盤整備は行うということは考えられるだろう。

半島が今後どうあるべきかという方向性を考えた上で、はじめて必要な基盤整備は何かという話になるのではないかな。

半島は、海に突き出ており地震に伴う津波被害も大きいといった特徴がある。防災、産業振興、観光・交流等を進めるため、国による支援措置の充実が必要。

津波対策は、半島以外の地域にも関係する問題。半島振興施策の枠組みの中だけで扱うには大きすぎる課題ではないかな。

今後は、今回議論した「半島振興の今日的意義」、母都市との関係性、半島の価値の掘り起こしや人的ネットワークの形成の重要性等について検討を深めたい。

(速報のため、事後修正の可能性あります。)